



男重寶記 全

卷第一 義三
玄覽今云十平
三與世十平等
為

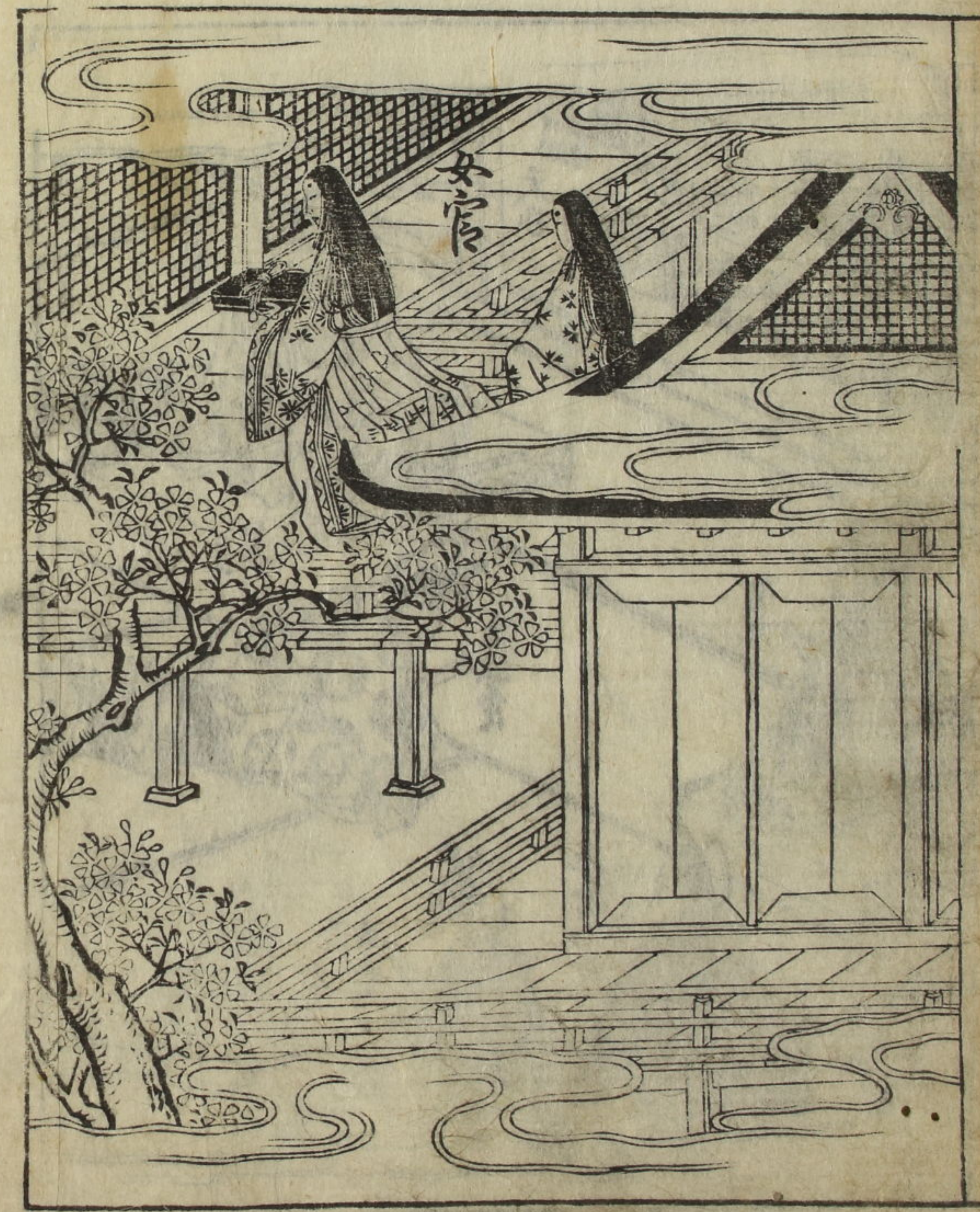
15
668

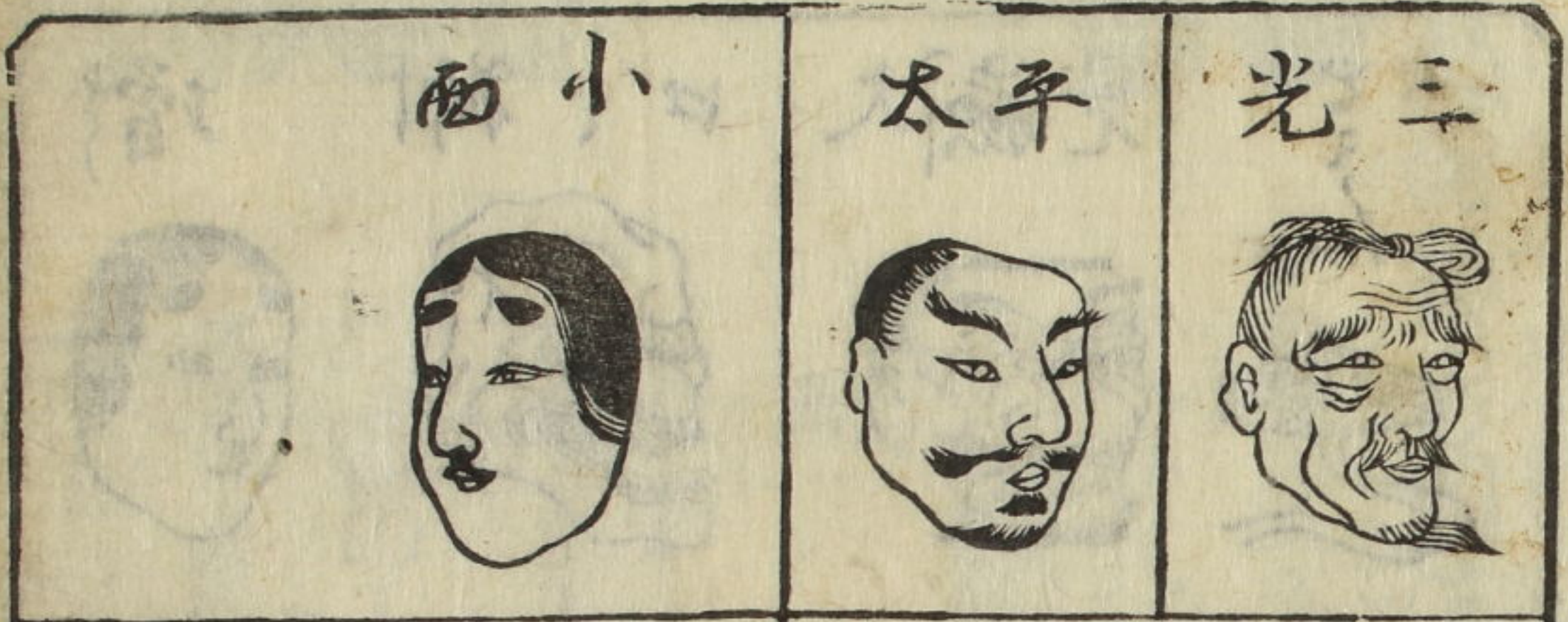




15
668
門4加5
冊668
卷







八鴻 俵甲三人出立角帽子白衣
 水衣 腰帯 珠敷 扇
 之出立面三光 白衣 衣 若き 玉袴 扇
 之男 放髪 のめ 水衣 キナシ 玉袴 湯干 掛
 扇
 之後 出立 面 太平 若き 玉袴 打鳥帽子
 袴 是 被 巾 切 太刀 扇
 小西 三人 出立 厚板 大口
 角帽子 珠敷 扇
 西 角 若き 白衣 厚板
 腰帯 座敷 キナシ 扇
 之 出立 面 角 若き
 大口 厚板 巾 木打



高砂 神祇本祝言
 脇 三 太 出立 鳥帽子 袴 衣 細子 数
 厚板 大口 腰帯 未廣 巾 角
 之 出立 面 小 尉 尉 髪 厚板 水衣
 大口 巾 掛 △今 若き 第 木 掛
 之 姥 面 尉 髪 之 帯 友 絨 キナシ
 水衣 腰帯 扇 掛
 之後 之 面 形 郭 郎
 若き 透冠 欠 袴 是
 袴 之 若き 大口 腰帯
 未廣



氏名目之

- 大老
- 大老
- 大名
- 不肖代
- 目付
- 大番
- 奉行
- 物頭
- 藤本
- 陪后
- 近后
- 不換
- 右筆
- 押領使
- 地頭
- 代友
- 物見
- 与力
- 同心
- 若堂
- 堅固
- 足控
- 小人

大石のつひことむれ半

心

一之巻目録終

増補男室産死表之一

一

男子一代の總編付たり士農工商の
 その男男女女ものゝけを中し極く男男女女に
 靈の異なるものをもく男は法陽を先陽を先
 天のあはたなりそ敵たるり上下大ふして上
 給別柔ものくハ半の別これに念然本真虫の
 唯維のよりあつ男の別並りて其のよれり
 自然に記れ此門別の本男の六歳よれり
 の名とあつめ七歳よる男男女女を念と
 業よるの産後よるの飲食の作法あけ
 かん目とのぞりとのぞり十業よるの
 業よるの十有業よるの業よるの業よるの



若者といふは平賀の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
より今よりして是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
ゆゑの事なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
上巻より上巻上巻なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
巻頭より上巻上巻なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり



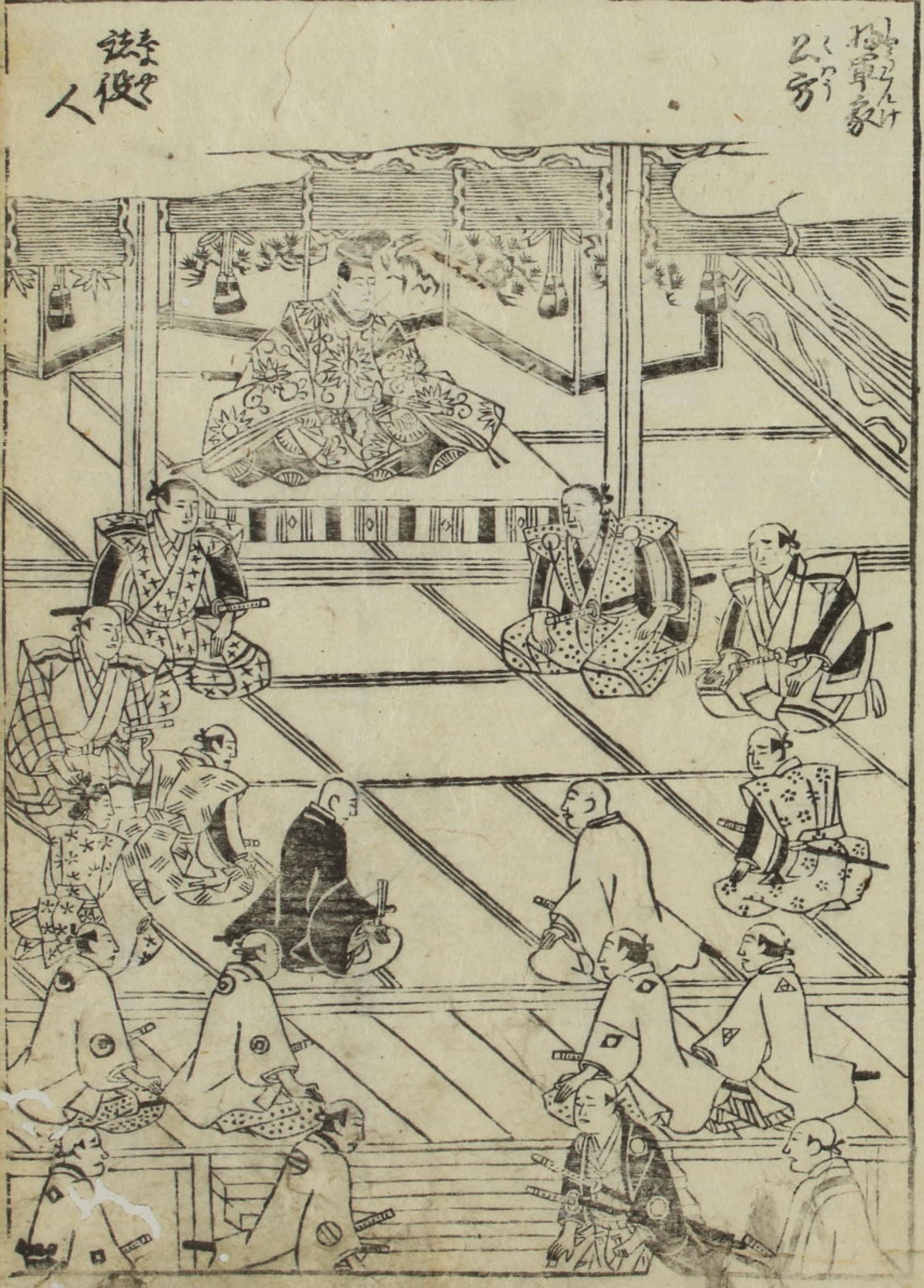
門の事 井流るる付

それゆゑと云ふ御門の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
ゆゑの事なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
上巻より上巻上巻なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
巻頭より上巻上巻なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり

曼殊院 竹園の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
ゆゑの事なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
上巻より上巻上巻なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり
巻頭より上巻上巻なりと云ふも是れ方の事なりと云ふも是も是も満願寺にて是れなり

九條殿 二條殿 一條殿

一 將軍日本に在るよりしてありて又皇孫を以て任するは
 本意を伴ふがごとくも任するは源氏に任するは任するは
 ついで今よりいふに任するは任するは任するは任するは
 ともなる氏ありて再興せしむる事と幕下とも幕下とも
 一 大老いしは管領といひ執権執りては天下の事と
 管領といひ執権といひは今ハ中といふ
 一 大老大夫人の公女に嫁せしむる事と幕下とも幕下とも
 守備といひは守中よりいふは守中といふは守中といふは
 の御進補使は任するは任するは任するは任するは任するは
 一人は守中といひは守中といひは守中といひは守中といひは
 一 守中代名は探類といふ事にはある事と幕下とも幕下とも



法
人
使

公
家

命僧正并多入りてみ説のまじも信用しけり
 のうと唇を牙齒喉は五音の五十字とて用て空
 死無常のいと七文字五文字の經弁につらりと一
 字はくも好して字といはれは身しとてのまじり
 文にけりどりのまじりとて世にれぞ常ありん
 五字のまじりけりてわさた愛介一 文にまじり
 瓶名とての五字とやつしとてわりのいはれも五字とあり
 字とての瓶名まじりてはつとてあり

いちははにほへそ
 いち波仁保色出
 ちりぬちをわわ
 知利奴後壹和

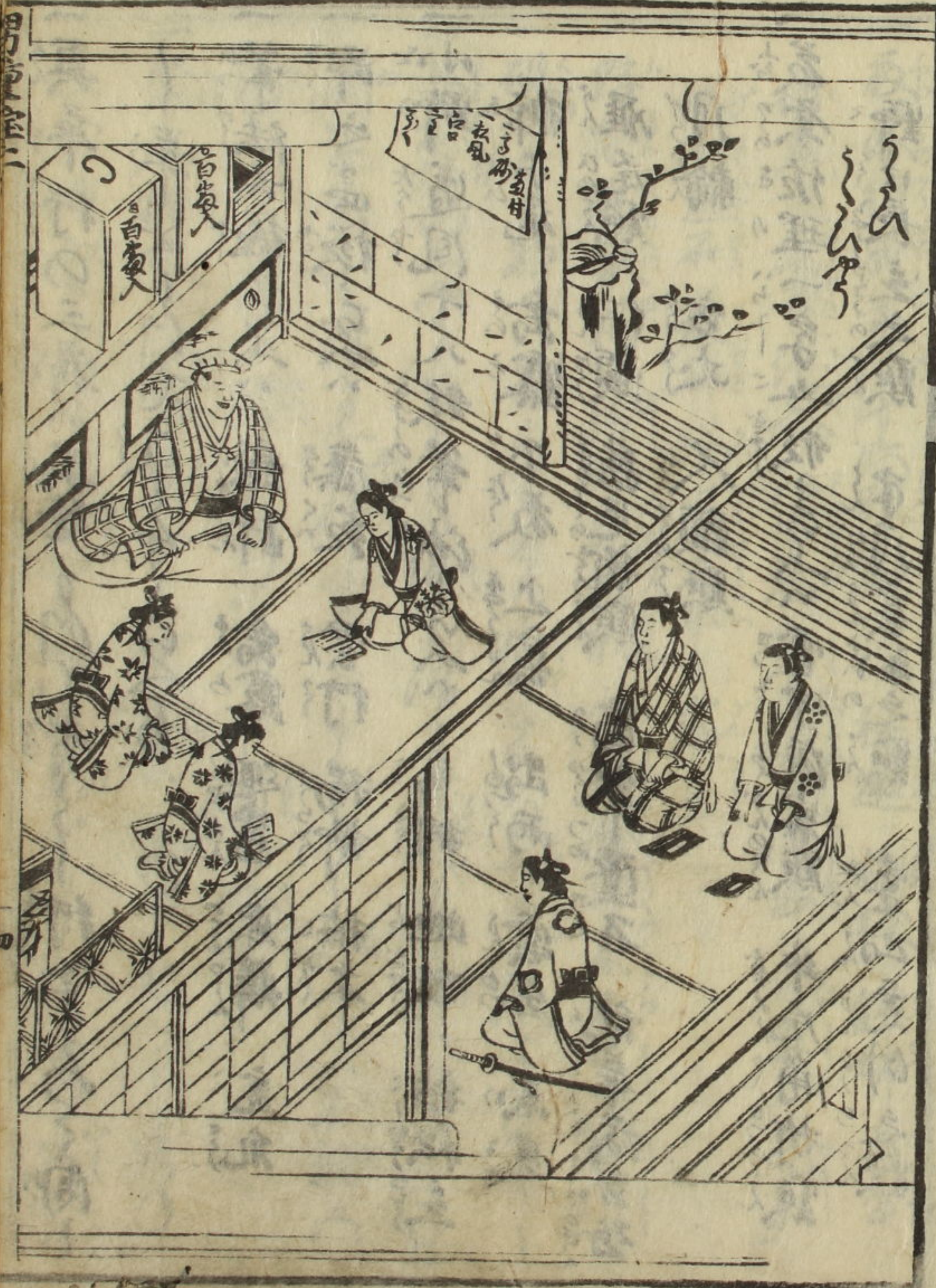
よたれうつねな
 与太礼曾津祿奈
 らいけうぬのれく
 良武守為乃北之

やまけふこねて
 也末計不右以天
 わさきゆめのみ
 各在幾由女義之

あひまむす
 表比毛世す
 とくしとて童子のまじり
 ちかしの童子のまじり

筆法の書の上根の字とての中根の七百字とての
 以下に五右字とてのあつていなり

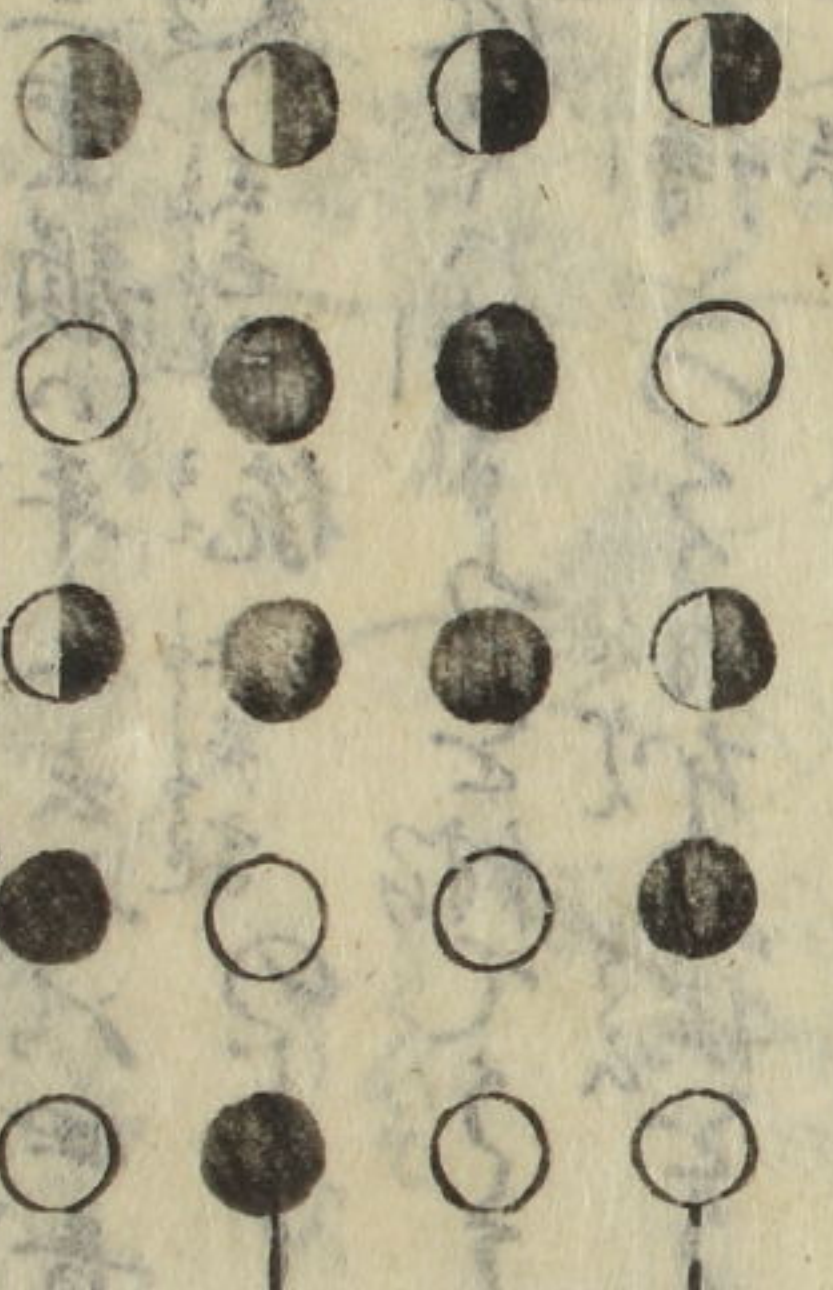
一古語より一多とてのえり
 一東坡のいり真のまじりて行のめがとてのまじり



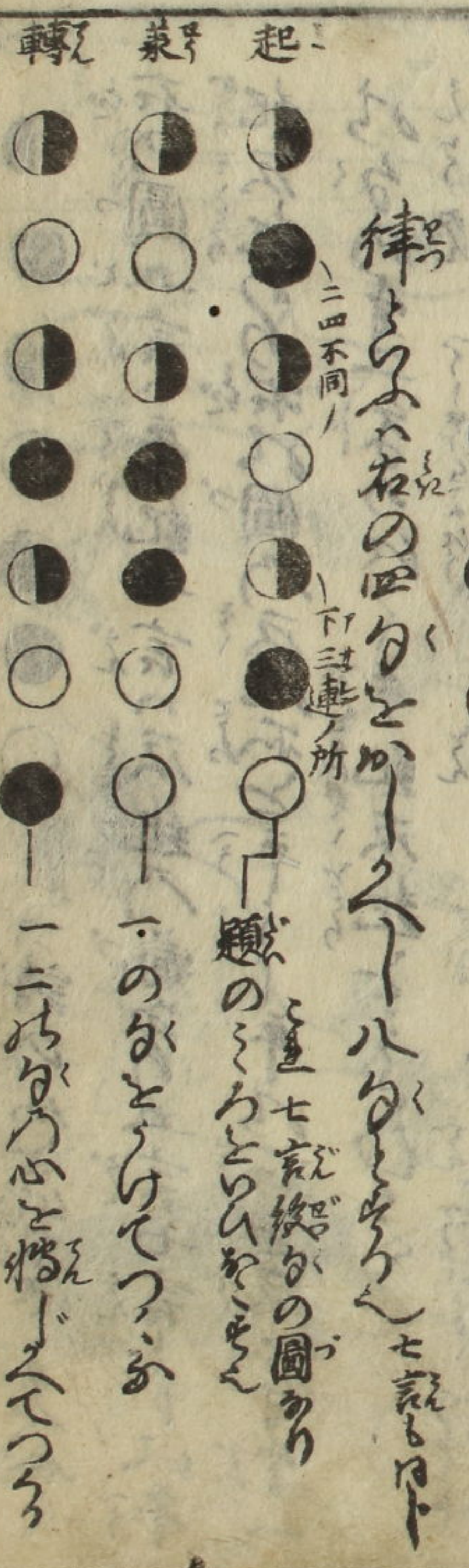
とよじとののり 平字反字はつらとあつらうへ三重韻に
 ありあり三重韻の才一重めはわり字ハ平字ハ才二重め
 才二重め終乃入色とわり所も才三才ハいづれと反字あり
 二四不同二六對しつらわりはるる上より才二才と
 才四才とあつら色の字とらゆらうとさうふ上平
 あり下反字と上反字と下平字とつらあり
 一六對しつらわりはるる上より才二才と才六才ととせ
 声は字とらゆらうと才二才反めじ才六才も反字と
 りらと平めじ又平字もらひく對しつら七言のみん
 下三連とて終しわり下つら上平めれば平反めれば反

と三言は終らうとさうふ

一七言終り五言終りハ圖とあり平仄の五本とありし



七言終りの圖あり
 五言終りの圖あり
 此の二行は平字と反字とをあらわす
 〇は平字、●は反字、◐は半反字とあり
 〇は平字、●は反字とあり



四言

此下りの能く月より三層上ありて秋をすもいれども一層付く
らむたむけなくも一層上りて秋をすもいれども一層付く
との能く三層の今より一層上りて秋をすもいれども一層付く
してて秋をすもいれども一層上りて秋をすもいれども一層付く
一層上りて秋をすもいれども一層上りて秋をすもいれども一層付く
二層上りて秋をすもいれども二層上りて秋をすもいれども二層付く
三層上りて秋をすもいれども三層上りて秋をすもいれども三層付く
四層上りて秋をすもいれども四層上りて秋をすもいれども四層付く
五層上りて秋をすもいれども五層上りて秋をすもいれども五層付く
六層上りて秋をすもいれども六層上りて秋をすもいれども六層付く
七層上りて秋をすもいれども七層上りて秋をすもいれども七層付く
八層上りて秋をすもいれども八層上りて秋をすもいれども八層付く
九層上りて秋をすもいれども九層上りて秋をすもいれども九層付く
十層上りて秋をすもいれども十層上りて秋をすもいれども十層付く

よりいづれは...
一 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども一層付く
二 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども二層付く
三 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども三層付く
四 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども四層付く
五 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども五層付く
六 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども六層付く
七 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども七層付く
八 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども八層付く
九 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども九層付く
十 此の能く月より三層上ありて秋をすもいれども十層付く

新板増補男室寶紀卷之三目錄
 一 榮湯の七中喫や 并に 諸礼の中
 二 五花の中 あらびよ 圖
 三 花籠の七中喫や 砂の丸の中
 ちげへんかのの中 徳法交の中
 登上乃半 恭將茶 双六
 登上の整膳れの中 同列子程持
 大拍茶の中 摩河大拍茶の中

新板増補男室寶紀卷之三目錄

一

榮湯らんとうの七中喫しちちゅうくや 并ならに 諸礼しよれいの中ちゆう

二

五花ごかの中ちゆう あらびよ 圖ず 砂すなの丸まるの中ちゆう

三

ちげへんちげへんかのの中ちゆう 徳法交とくぽうかうの中ちゆう
 登上とんじやう乃半のはん 恭將茶きんじやう茶 双六しやうろく
 登上とんじやうの整膳せいぜんれれの中ちゆう 同列子程持どうれつしじやうぢ
 大拍茶たいぱく茶の中ちゆう 摩河大拍茶まがたいぱく茶の中ちゆう

雙六之詩

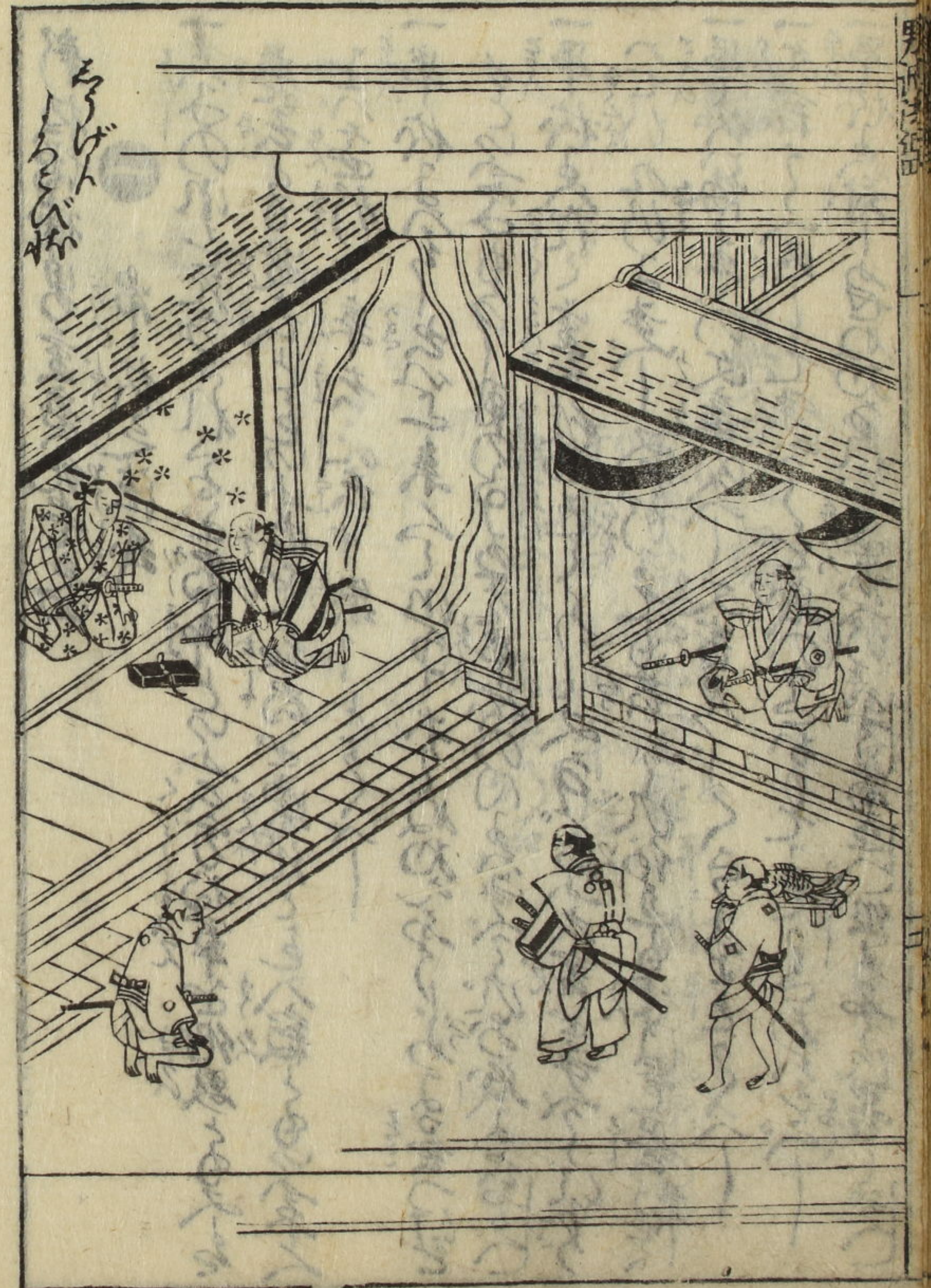
物言撐面怒難堪
 打敵方々石乱参
 彼呼朱由我朱三

將秦國の武帝のりちめ治る下の五侯と云ふお秦のりり自る温
 云お秦國法つら秋朝よ余桂宗をわたりまらぬそのお秦のりり
 云れつれ得秦よ教授の○大将秦る教言のや教授河たお秦自る教
 百十たお秦る教言のや教授大お秦る教言のや教授中お秦る教言のや教授
 云れつれ得秦よ教授の○大将秦る教言のや教授河たお秦自る教
 百十たお秦る教言のや教授大お秦る教言のや教授中お秦る教言のや教授
 云れつれ得秦よ教授の○大将秦る教言のや教授河たお秦自る教
 百十たお秦る教言のや教授大お秦る教言のや教授中お秦る教言のや教授

- 横行 横行の
- 森積 横行の
- 堅行 堅行の
- 飛牛 堅行の
- 角鷹 飛牛の
- 飛鷲 飛牛の



大天
 大天
 大天



何月何日何...

鶏 III 本膳 煮 III 飯 III

二 二汗 II

筆義 III

香 II II

多 II II

盡 II II

川 II II

入麩 豆腐 葛粉 胡麻 麥粉 熟 温 餅 煎 餅

雜煮 葛粉 水線 水團 黍餅 粿 黍餅

林餅 赤豆餅 豆粉餅 豆餅 圓子 黍餅 黍餅

綠豆 豌豆 白豆 豆 蠶豆 刀豆 豆腐皮

山椒 胡椒 姜 生薑 山葵 木天蓼 芥菜

野蕨 葱 蒜 芥 芥 芥 芥 芥 芥 芥 芥

薯蕷 甘藷 芋 芋 芋 芋 芋 芋 芋 芋

冬瓜 西瓜 南瓜 胡瓜 甜瓜 蜜瓜 瓜 瓜

紫菜 龍鬚菜 雞冠菜 放翁菜 乾菜 昆布 海苔

海苔 和布 水禪寺若水 松葉菜 海蘆

石菜 木耳 松茸 蕈菌 石耳 樵草 德

油桃 梅 杏 林檎 蓋柿 白柿 柿 柿 柿

蜜桃 榧 葡萄 蓮藕 烏芋 蒸芋 五加 枸杞

聖子 栗 大豆 豉 櫻 粉 粉 粉 粉 粉 粉

法論 未 抽 茄 落 莖 莖 莖 莖 莖 莖

庖丁 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚

盒 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆

猪口 湯 續 重 箱 提 盒 盒子 擦子 鉸子

提子 杓子 笊 籬 食 籠 飯 匙 飯 櫃 匙 筭

何月何日何...

菓子 III

後 III III

菓子 III

菓子 III



米くせもあつたが、おのれもせてもうくあつたことうとぞ
 一葉のりまゝあまらせら丹後徳のりて木あらせら、
 一鬼像の甲斐まゝあまらせら、
 一ひやうちのりまゝあまらせら、
 一京大坂あまらせら、
 一ふじのりまゝあまらせら、
 一らゝあまらせら、
 一本作のりまゝあまらせら、
 一おのれとあまらせら、
 一甲斐のりまゝあまらせら、
 一迎はれまゝあまらせら、
 一おのれとあまらせら、



Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be in a different script or dialect. The page shows signs of age, including staining and wear.